

徳島バッテリーバレイ構想推進会議（第1回） 議事要旨

日時：令和6年7月26日（金） 15：00～

場所：徳島県庁10階

議事要旨：

- 「資料1 徳島バッテリーバレイ構想関連施策の状況及び今後の進め方について
- 資料2 蓄電池産業の現状と今後の方向性
- 資料3 関西蓄電池人材育成等コンソーシアムについて」につき、事務局、経済産業省及び近畿経済産業局より説明。

「今後の進め方」等について、メンバーからの発言要旨は以下のとおり。

○競争力のある電池製造

- ・電池製造の集積地として、サプライチェーンの短いエコシステムを作り、コスト力と環境性能を同時に確立していくことが重要である。
- ・国際的な競争の中では、製造工程での電力の再エネ率を高めていくことが不可欠となっており、クリーンエネルギーを優先的に供給する政策が必要。徳島のバッテリーは「クリーンバッテリー」というメッセージを打ち出していきたい。

○新たな事業用地の確保

- ・県の工業団地に空きがない中、企業の大規模投資に対応するためには、新たな事業用地を作っていくことが必要である。

○KPIの見える化

- ・「競争力・経済安全保障・グリーン」の3つの観点のバランスが非常に重要であり、（そのバランスを確認する上でも、）見えるKPIを明確に作って、それに対する目標値を設定することで、その数字にみんなが吸い寄せられて取り組みが盛り上がってくると思う。
- ・特に製造工程の再エネを進めるにあたって、KPIとして「CO2削減量」の目標値を設定しておく必要がある。

○企業進出の観点

- ・自治体の補助金額、人材確保のしやすさ、クリーンな電源や用水の確保等は、企業が立地を計画する際の判断に影響するため検討が必要。
- ・欧州での規定等を踏まえ、特に蓄電池に関しては、環境に配慮した製品が求められているが、大企業に限らず、地域の中小企業が電池メーカーに供給するにあたっても同様の対応が必要となってくる。
- ・中小企業が脱炭素事業に取り組むにあたっては、経済産業省の専門家派遣など、国の施策も活用しながら企業単独ではなく地域一体で取り組んでいく方がいい。

○学生に対する蓄電池教育

- ・科学に興味を持つ学生を増やしたいと考えており、中学生の段階から興味をもってもらう取組も進めて欲しい。

○「クリーンバッテリー」の確立に向けた施策展開

・グリーン関連の投資に関して、現状は、事業者・投資家ともにまだまだ及び腰の状況。グリーンボンド等の発行に関するメリットが見えにくいためと考えられるが、今後の広報活動の中では、投資家も一つのターゲットとして捉え、投資家に刺さるという視点でロビー活動を行ってもいいのでは。

・TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に賛同して、スコープ1（直接排出）とスコープ2（間接排出）の開示は進んでいる。一方、スコープ3（その他の間接排出（取引先））は企業も四苦八苦しており、この部分のCO2排出量算定やクリアに向けた支援を構想の取組として進めていくこともいいのでは。